

明神といふあり

一 横坂

濱邊海村の南に惣屋あり往古弘法大師
おゆりあふ所と云人云傳へり今ハ塞きて
人をいまだ小寺氏曰濱のありこ村り毎や
坂村北より
横坂と云といふ所ハ惣屋城といふ所ありけ
色ハ意のふありたけなぬ説くて院
校と云り〜と云く

一 荒ヶ岡

古ハ意程岡と云り義經死せし處ハ加賀ハ
井上たきつり下人平之部といふ男やつる
祠の月ハねんぢ田の岡大泉の底大おん寺
ををくをひてとあり又東鑑九之巻ハ自
越後國出出羽越念程岡ニ遂合戦云々 當時
領主方より冥土を至西ハ赤々天あり沙の
海より附ハ多井海中にあり風系之地
岡を越て皆新ハ系海村といふ義經記ハ
りりいといふは是なりりいハ海の字をな
文字に誤るなりけ所の南れ方に越後出羽
の至境あり當時ハ神祇十人あり去秋社